

■どんなプランターがいいの？

プランターにはたくさんの種類があって、迷ってしまう。まず、土が何リットル入るのかを調べよう。苗1本につき、10～15リットルくらいは必要だ。苗を2本植えるなら、長さが60～70cmくらいないとダメだ。それと、同じ量の土が入るプランターなら、なるべく深いものがよい。

■プランターがなくても・・・

苗を1本植えるのなら、土がだいたい10～15リットルくらい入れることができ深さが20cm以上あって、底に穴をあけることができるものなら、なんだっていいんだ。ふつうのバケツの底に穴（直径2cmを4～5個）をあけたものでもよい。発泡スチロールの箱の底に、ぼうでつついて穴をあけたものでもいい。物置の中を探してみよう。

■とてもだいじなもの、

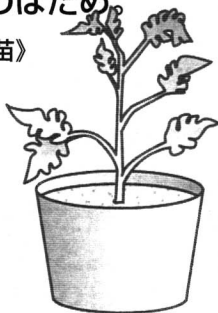
その名は「土」

プランター栽培で一番大事なものは、土だ。よい土だと、トマトはよろこんで実をたくさんつけるよ。まず、畑の土を焼いて（消毒のため）、そこに土と同じ量の「堆肥」、それから草や木を燃やして残った「灰」をひとにぎりまぜる。これで完成だ。あとは、野菜の種類にあわせた量の化成肥料をまぜればよい。面倒なら、園芸店で売っているプランター用の土でもいいけどね（肥料入りと、そうでないものがあるので注意！）。

■苗について

苗は、園芸店で売っています。でも、買うときは注意して！よくえらんで、よい苗を買きましょう。よい苗は、クキが太く、緑色が濃くてがっしりしたもの。葉が黄色くなっていたり、ひよる長いものはだめ

《悪い苗》



《良い苗》



■なぜ、苗のそばに棒を立てるの？

トマトはもともと、地面をはう植物なんだ。でも、作りやすく、たくさんとるためには、立てて栽培した方がいいんだ。そのままでは倒れたり折れたりするので、棒でささえてやる。ぼうは倒れないようにしっかり立てよう。のびた所を、つぎつぎしばっていこう。

■苗をうえてからのせわ

苗をうえたプランターは、日がよく当たる所におこう。水は、土の表面が乾いたらあげるように。特に、夏はとても乾きやすいので、毎日あげるようにしよう。水をあげるときは、なるべく「葉のうら」にジョウロでかける。それから、水が乾きにくくなるように、土のうえに細かく切った「ワラ」や、枯れ葉などをしいてやるとよい。プランター栽培は、土が乾きやすいんだ。

実をつけはじめたら、「追肥（ついひ）」をしよう。株の根本に、「化成肥料」をペットボトルのキャップに2杯、まく。これを1ヶ月ごとに、かれるまでやってあげよう。

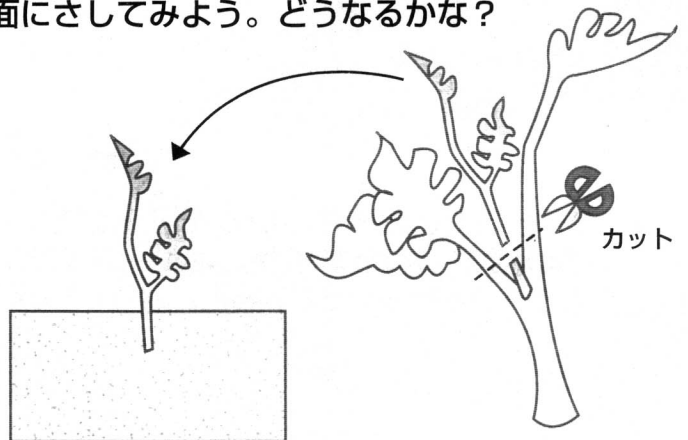
■いつ頃までとれるかな？

実が赤くなりはじめたら、真っ赤になったものからどんどんとって食べよう。おいしいよ！

普通はだいたい10月頃までとれるけど、暖かくて日がよく当たる教室の中におけば、枯れないで来年もまたトマトが食べられるかも？

■おもしろ実験

育てていくと、葉のつけねからあたらしいクキがのびてくることがある。これを切りとって、地面にさしてみよう。どうなるかな？



風などでクキが折れたら、あきらめずに、そえぎを当てて、テープなどでぐるぐるしばっておいてみよう。もどおりになるかもね！